

昭和池

北播磨地域は瀬戸内式気候に属し、肥沃な米どころでありながらもともと少雨地域で数年おきにやってくる干ばつに困っていた。

江戸末期は上流の加古川から水をもらおうとしても、諸大名が石高を減らしたくない為、水路用地をもらう事が出来ず、それぞれの地域で水田用にため池を築造した。しかし、雨水ため池、それにほとんどが皿池であったため干ばつが長引くと稲作は全滅に近い被害を被った。

大正 13 年の大干ばつで、加東郡北部耕地整理組合が県に陳情した。折よく、兵庫県議会のため池新設国庫補助申請が昭和 3 年 12 月には農林大臣より補助の指令がでた。

請け負った大倉組が昭和 4 年 1 月からカラクニ谷を堰き止める大工事が始めたが、半年たったころ大倉組から条件が違い予算オーバーするとクレームがついた。11 月 6 日の評議委員会は大倉組を解約し県営にすることを議決した。

しかし、工事費の件で社町と福田村の役員との協議では解決策が見つからず、半年が経ったころ井上萬司氏が組合長を続投することになり、昭和 5 年 11 月 19 日、社町と北部耕地整理組合と工事契約がなされた。取水路工事は中村熊吉が請け負った。

工事費の削減が叫ばれる中、築堤工事の鋼土、締め方には妥協せず指示した。

(岩盤及、心壁肌ハ練土ヲ以テ厚一尺位順次詰込ミ密着セシメ其レ以上ハ練返シ土ヲ以テ詰込十分搗キ固ムルヲ要ス。鋼土ハ総テ粘土ニ相当割合ノ砂及砂利ヲ混ゼルモノ又ハ混合セシメタル。係員ノ指定セル材料ニ相当ノ混ザリヲ保タシメ能ク切返シ、厚サ平均五寸ニ引キ均シタル後転圧機径四尺重量八百貫以上デ転圧シタル上掛矢、目方八百匁位。又ハ土締機ヲ以テ搗キ固メ凹凸面ヲ造り次層トノ接触ヲ完全ナラシム可シ。掛矢ウチナラスニハ面一平方尺四、五点ノ割合ニ打ち進ミ更ニ打返シヲ行フモノトス。打返シハ其ノ凸部ヲ打ち面平方尺ノ打数十点以上ノ割合トナスベシ)

手抜きがないので今日まで堰堤からの漏水はゼロである。

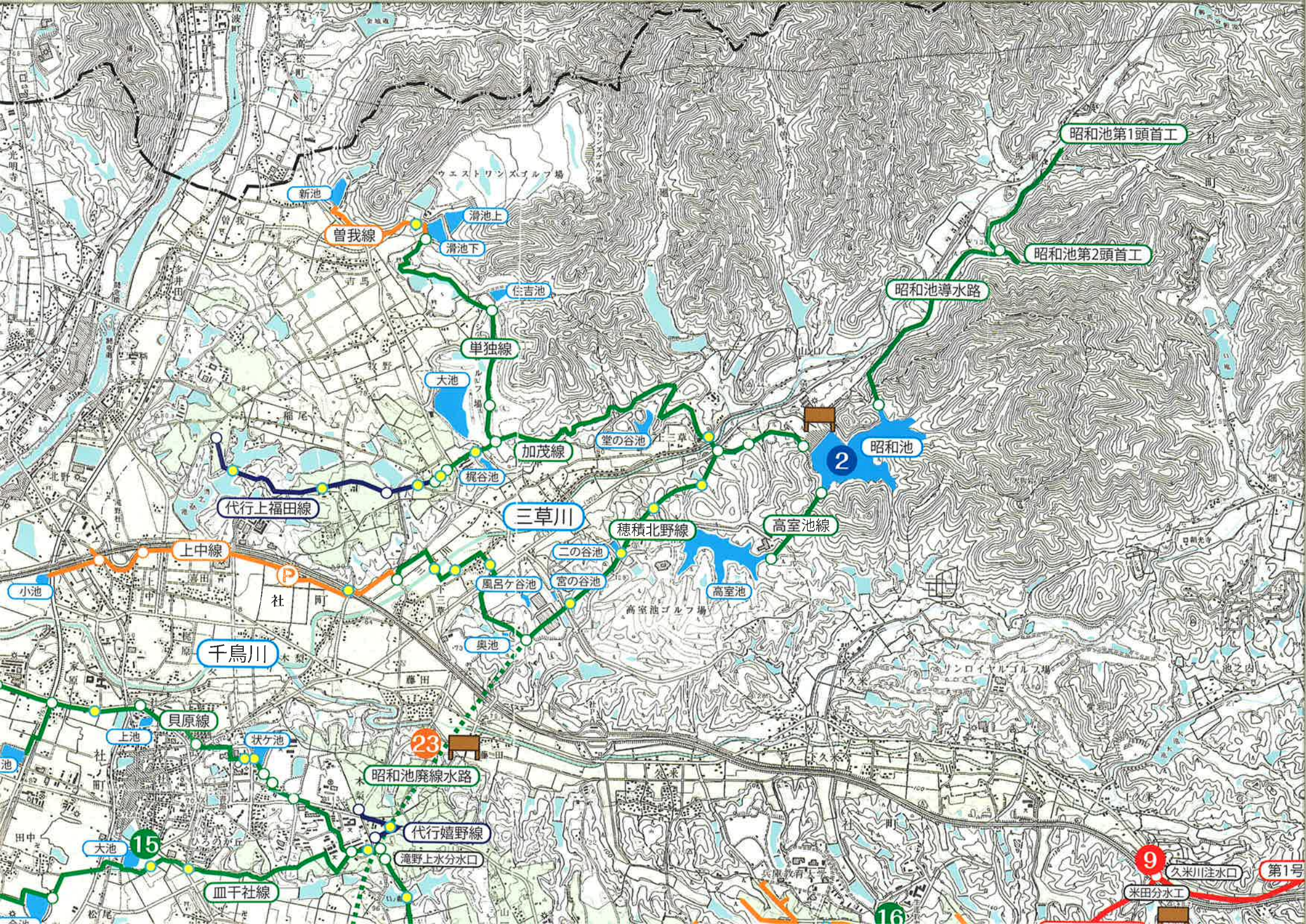
現場では重量ローラーを引くトラックター、トロッコを引く索曳機、岩を砕く削岩機あったぐらいで、トロッコへの積み込み、工事現場への荷卸し、運搬は人夫たちがもっこで運んだ。土砂の崩壊や何らかの事故で多数の死傷者がでた。死者の慰霊塔には朝鮮人、日本人と一緒に祀ってある。

昭和 8 年には昭和池が竣工し、昭和 9 年に隧道が出来、本格的に配水を開始したのは昭和 10 年であった。

※引用文献：「様々な困難を乗り越え、地域が造り上げた土堰堤」岸本清明、臼井泰三著

【昭和池の概要】(日本ダム協会 ダム便覧より)

- ・型式：アースダム ・用途：灌漑用水 ・河川名：加古川水系三草川
- ・竣工 1932 年(昭和 8 年) ・堤高：29m ・堤頂長：205.4m ・堤体積：248 千 m³
- ・総貯水容量：1,502,000 m³ ・有効貯水容量：1,500,000 m³



昭和田第1頭首工

新池

曾我線

滑池上

滑池下

住吉池

単独線

大池

加茂線

堂の谷池

昭和田

昭和田第2頭首工

昭和田導水路

代行上福田線

三草川

穂積北野線

高室池線

上中線

梶谷池

二の谷池

風呂ヶ谷池

宮の谷池

奥池

高室池

千鳥川

貝原線

上池

状ヶ池

昭和田廢線水路

代行嬉野線

滝野上水分水口

皿千社線

9 久米川注水口

米田分水工

第1号

15

16

23